

口腔内の改善から 患者の全身の健康を守る

新神戸歯科 院長 藤井佳朗

病院で何度も検査や治療を受けてきたが一向に症状が改善しない——。そんな原因不明の身体の不調に苦しむ患者が増えているなか、神戸市中央区にある「新神戸歯科」の藤井佳朗氏は、これまで培った数多くの臨床実績をもとに「脳歯科」を提唱。口腔内（周辺）の異常を治すことで脳機能を正常化させ、症状の改善・緩和に取り組んでいる。口腔内のアプローチから患者の全身の健康を守る「脳歯科」とはどのようなものなのか話をうかがった。

口腔内の治療により脳機能を正常化させて 原因不明の身体の不調にアプローチ

——藤井先生が実践されている「脳歯科」について教えてください。

藤井 現代医学というのは西洋医学が中心となっており、日々進歩を遂げていることは周知の事実です。一方で、腰痛やひざ痛、肩こり、頭痛など、いくら病院で検査や治療を受けても症状が改善せずに苦しんでいる患者さんがおられることも事実です。「高齢だから仕方がない」などと医師から言われ、治すことを諦める。そんな患者さんも多いと聞きます。

こうしたなか、私は長きにわたり患者さんの歯科治療を行ってきたわけですが、治療による患者さんの全身の変化をいろいろと見てきました。た

とえば、治療後に視界がよくなった、頭がすっきりした、肩こりが治ったなどは日常茶飯事です。なかには、噛み合わせを調整しただけで腰痛やひざ痛が改善された、認知症の患者さんに入れ歯を入れることで笑顔が出てきた、寝たきりだった人が1人で歩けるようになった、1本の歯を抜いただけでパーキンソン病が改善したなどといったケースも珍しくありません。

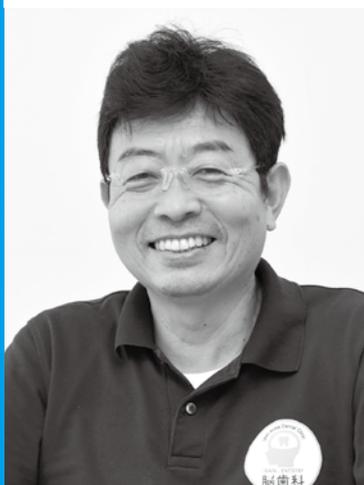
こうした現象はなぜ起きるのか。口腔内の改善と脳機能は密接に関係している。歯の治療で脳機能は変化する。このような推察を立てて研究と臨床を重ねてきました。なかでも私は、12対ある脳神経のうち、口腔周辺を支配している三叉神経が脳神経の中で圧倒的に太いことに注目したわけです。すなわち口腔内からの信号が他の領域に比べて圧倒的に多くの信号を脳に送り、刺激していると考えられます。

口腔から脳に向かう有害な刺激を除去し、いい刺激を送り込むことで脳機能を改善すれば、原因不明の身体の不調もよくなる。これが「脳歯科」です。また、「歯科治療＝脳治療」でもあるというのが、脳歯科の概念であり、使命でもあります。

患者の症状等によって診療の流れは異なる 治療において留意すべき3つのポイント

——口腔内の治療により脳に向かう病的刺激を除去し、全身の不調を改善していくわけですね。実際の診療の流れについて教えてください。

藤井 診療の流れは、患者さんの症状などによっ



■プロフィール

1985年、愛知学院大学歯学部卒業。1989年、同大学大学院修了。歯学博士。2000年、新神戸歯科を開業。2009年、国際鍼灸電気治療大学フェロー認定。2018年5月、歯科と統合医療の国際学会大会長を務める。同年6月には英国オックスフォード大学で開催された「International health conference Oxford 2018」で講演発表。同年、国際鍼灸電気治療大学准教授。海外の関連学会等を中心に学会発表を行い、多くの国際学術論文発表等を行う。

■医療法人社団新神戸歯科

650-0021 神戸市中央区三宮町
3-9-18三陽ビル2階
TEL：078-332-7667

で大きく異なります。

整形外科に何度、通院しても腰痛やひざ痛が治らず、レントゲンを撮っても異常が見つからない患者さんを例にとりましょう。この場合、まずは体感のバランス、姿勢、力の入り具合などの確認から行います。

私たちは当たり前のように2足で歩いています。これは実はとても不安定な状態なのです。今、AI等が進化していますが、その叡智を集結させてつくる二足歩行ロボットでも人間の歩き方は真似できません。脳が重力を感知しながら、足もとの状況を踏まえた上で、瞬時に信号を送り転ばないように全身の筋肉を動かしているわけです。つまり脳機能が低下すると転びやすくなるのです。そして、原因不明の腰痛やひざ痛でも脳機能の低下が考えられます。地球の重力の中心と身体の中心を合わせることができず、普段から傾いている。その歪みが痛みにつながっている可能性があるのです。それを確認するのです。

次に、口腔内を診ていきます。歯を噛み締めた時と口を開けた時との力の入り具合の差などを確認します。たとえば、口を開けた時にバランスが不安定になることがわかったら、開口行動が脳の機能を低下させている可能性があるのです。その部分を見極め、虫歯や歯周病の治療はもちろんのこと、粘膜を圧迫していた歯の形を整えたり、詰め物を変えたり、歯を抜いたり、入れ歯を調整したりなどの治療をします。

その後、本当に痛みが治ったかなどを確認するために、立った状態、座った状態、寝た状態のバランスなどを診て、必要に応じ口腔内の調整を何度か行います。

治療効果は比較的すぐに表れます。ただ、今、あげた事例は簡単なケースです。実際はもっと複雑です。口腔内のどの部分が脳に悪い信号を送っているのかを、慎重に確かめながら進めていきますし、1回の診療で症状が改善しない場合もありますので、その際は、何度か来院していただきます。

—実際の診療のなかで留意しなければならないこと、ポイントなどについて教えてください。



身体の不調と口腔内の状態がどのように関係しているかを見極めながら慎重に治療を進める

藤井 1つは、一度にいくつも治療を行うと、オーバートリートメントといって、身体がついてこないケースがあるので注意が必要です。

2つ目は、身体の不調を訴え当院に来られた際、がんなどの大きな病気が隠れているケースがあります。脳歯科を受けると症状が緩和されることがあり、患者さんは改善したと思ってしまいます。結果、がん治療を行うのが遅れてしまうという恐れも出てきます。当院に通院しても、なかなかうまく症状が改善されない、不調を繰り返すなどのケースは要注意です。ただ実際、ほとんどの患者さんは病院などで検査や治療を受けています。

3つ目として、口腔内のどの部分が身体の不調に影響を及ぼしているのかを見極めるということです。一度、削ったり、抜いたりすれば、歯はもとには戻りません。逆に症状が悪化することも考えられますので、これまでの学びと経験を駆使して、治療は慎重に進めることが重要になります。

患者さんの声 (50代女性)

突然、膝が小玉の西瓜ぐらい腫れて、痛みも強く、歩くのが辛かった。整形外科を受診すると「加齢による軟骨のすり減りが原因。筋肉を鍛えていくしかありません」と言われ、それからも症状は一向に改善しません。困っているなか、知り合いに紹介してもらったのが新神戸歯科でした。合わない詰め物を変えたり、歯を抜いたりなどの治療をしてもらうと、腫れや痛みが改善し、普通に歩けるようになりました。本当に驚いています。まだ、完治とまではいかず1年ぐらい通い続けていますが、日常生活に支障が出ることはなくなりました。



オーダーメイド医療を提供 完全予約制で自由診療

——現在まででどれぐらいの患者さんを診てこられましたか。

藤井 一般の病院等から「原因不明」「治療方法がない」といわれ、一縷の望みを求めて当院に来られた患者さんはこれまで約1,500人にのぼります。そのうちの約8割は抱えていた症状が改善・緩和されました。患者さんの年齢層は子どもから高齢者まで幅広く、その疾患は、腰痛やひざ痛、肩こりなどから、アトピー性皮膚炎、不眠症、認知症、パーキンソン病などさまざまです。そういう意味では疾患に関係せず、脳歯科は有効です。

1日の患者数は7～8人で完全予約制となっています。1人当たりの診療時間は1～2時間です。ほとんどの患者さんが口コミやホームページを見て来られています。少し前までは予約が3年待ち、1年待ちという状況でしたが、現在は落ち着いてきました。また、当院は完全自由診療で初診10万円、再診8,000円と設定しています。その他に治療費が別途かかる仕組みです。

——自由診療の料金はどのような考え方にに基づき設定されているのですか。

藤井 初診料10万円というのは少し高額なイメージを持たれるかもしれませんが、実は採算ギリギリのラインです。脳歯科を受けて症状が改善された人は来なくなりますから、実際は治療困難な患者さんが多い状況で、1人ひとりの診療時間は長くなります。1日に診ることができる人数には限りがあるということです。

また、当院は、いわゆるオーダーメイド医療を提供しています。口腔内を改善するために、たくさん種類があるなかから、その患者さんに合った金属やセメントを使用するわけです。すると、医療材料のなかには年に数回しか使用せず、使用期限を迎えてしまうものもあります。さらに歯型を取る材料（印象材）はより精密で高額なものを使っています。

経営上、今の価格設定では利益を十分に上げる

医療法人社団新神戸歯科 勤務歯科医師 鈴木麻夕



ももとは保険診療を中心とした他の歯科医院で勤務していたのですが、保険の歯科治療に絶望を感じていました。患者さんの虫歯だけを流れ作業のように治し、悪いとわかっていながら、体にあっていない補綴物を入れていく。一時は歯科医を辞めようとも思いました。そんななかで出会ったのが藤井佳朗先生です。まずは先生の治療を何度か見学させていただき、その技術を勤務先の患者さんに試したわけです。すると患者さんは、歯だけでなく身体の調子が本当によくなり、笑顔になっていくのです。そんなことを何度も体験しました。もちろん患者さんのためという想いもありますが、一番は自分自身のやりがいのために、「脳歯科」を本格的に学びたいと強く思い、新神戸歯科の門をたたきました。実際、先生のところで学ぶようになり、今、感じているのは、医科も歯科も関係ないということ。アプローチの方法が違うだけで、患者さんの全身の健康を守ることが私たちの役割であるということです。

のは難しいのですが、オーダーメイド医療だからこそ治療効果も高く、患者さんが来る。患者さんから信頼をいただけるのです。経営だけを考えるならば、富裕層を対象にして、もっと価格設定を上げればいい。貧富の差が健康を左右するというのも忍びない。

そういう意味で、料金については、経営が何とか成り立つところで設定しています。

慢性疾患が増える高齢社会だからこそ 多くの歯科医に「脳歯科」を学んでほしい

——これまで原因不明の症状に苦しむ多くの患者を救ってこられたわけですね。

藤井 原因のわからない病気はあっても原因のない病気はありません。たとえば、腰痛患者は全国に2,800万人いるといわれていますが、そのうちの85%は原因不明とされています。そして、その原因を追求しないままに、整形外科や整体で治療が施されている。脳歯科ならその改善率を高めることが可能だと思っています。

これは腰痛に限ったことではありません。たとえば、ひどいアトピーの患者さんが来られたことがありました。皮膚科でもずっとそう診断されて

きた。でも口腔内を調べて金属アレルギーだったことがわかり、補綴物を変えたことでアトピーは完治しました。つまりアトピー性皮膚炎ではなく、歯科金属アレルギー性皮膚炎だったのです。

また、ある患者さんは重度のパーキンソン病と診断され、来院されたときは一歩も自力で歩くことができませんでした。筋肉の硬直状態と口腔内の関係を検査し、放置されていた重度の虫歯の治療を行った。すると、すぐに1人で歩けるようになったのです。会話もできるようになりました。脳歯科により“重度”ではなくなったわけです。

今の西洋医学では、症状が出ているところとその原因が同じ場所である場合、治療効果を発揮しますが、症状と原因が離れている場合は対応が難しいのです。そして、原因を追求せずに薬を処方して終わりです。対症療法でよしとする、国の考え方にも問題があります。

そういう意味では、原因不明でなかなか一般の治療で改善しない時、脳歯科というアプローチが有効かもしれないということを多くの医療者に知ってほしいと考えています。

——脳歯科の果たすべき役割は大きいと感じますが、浸透していない現実がありますね。

藤井 そのとおりです。これまでいろいろな講演会や学会発表などを通じて脳歯科の有用性を広げようとしてきました。特に海外の関連学会等での評価は高く、基調講演などを依頼されることがたびたびありますし、2018年5月には「歯科と統合医療の国際学会」の会長を務めました。同年6月には英国オックスフォード大学から招待され、「International health conference Oxford 2018」で研究論文を発表しました。11月にチェコのプラハで開催される国際学会でも会長を務めさせていただきます。

ただ、国内となると浸透していないというのが現実です。それでも「噛み合わせと全身の健康との関連を考える会」を組織し、107名の会員（歯科医師等）を対象に、そのノウハウを学ぶための研修会等を定期的に行っていました。来月からは新たに「藤井塾」を発足し、脳歯科の基礎と実務を身につけるための研修会を開催します。また、常時、歯科医師・歯科衛生士の当院の見学を受けつ

けています。

とにかく、より多くの歯科医の先生方には脳歯科を学び実践してほしいのです。知識をつければどんな歯科医でも取り組むことができます。超高齢社会が進展し、原因不明の慢性疾患に悩む高齢の患者さんは、どんどん増えてくるはずですが、もし若い時から脳歯科を受けていけば身体の不調は起きにくくなる。つまり、究極の予防医療でもあるのです。今の日本の歯科医が、全身を治すという視点を持ち、脳歯科を实践することで、社会的地位は大きく向上すると考えています。

——最後になりますが、藤井先生のこれからの抱負、展望などについてお聞かせください。

藤井 今、患者さんは、全国、そして海外からも来ています。脳歯科を通じて世界中の人々に貢献していくこと、そして、次世代にその知識と技術を伝えることが私の役割だと思っています。

口腔環境と身体の状態が大きく関係していることは、多くの研究結果が示していますが、口腔内を改善し脳機能を改善させれば、自然治癒能力が向上し、あらゆる病気に対して有効な治療法になり得るはずですが、これらの症例を積み上げていくと同時に、脳の中で何が起きているのか、脳神経の専門家たちと協力しながら脳歯科の作用機序を解明し、さらなる浸透につなげていきたいと考えています。（平成30年8月28日/取材協力・ふるもと会計事務所/本誌編集部 佐々木隆一） 

顧問会計事務所より一言

MX2や継続MASによる分析データを 経営判断に役立てる

ふるもと会計事務所

所長・税理士

認定医業経営コンサルタント

近畿北陸歯科医療管理学会理事

古本敦士



新神戸歯科様は、自由診療報酬比率100パーセントの医療法人です。自由診療は、「種蒔き期と収穫期が長いスパンで現れる」と、よく言われます。そのため、経営分析手法も、それなりの工夫が必要となります。

新神戸歯科様は、MX2を設立当初から、ご採用いただいております。そのデータをもとに、継続MASにて自由診療報酬の長期的な傾向分析をしております。

また、その他各種分析は、グラフ等でも院長先生にご覧いただき、数字だけでは見えない、副次的な分析も行い、医療法人の経営判断に寄与させていただいております。